

特集 比布町複合庁舎建設のこれまでとこれから

皆さまからのご意見

これまで、さまざまな場面で町民の皆さまからご意見をいただきながら、複合庁舎の計画を進めてきました。交流機能、防災機能、子育て支援機能などの考え方は、皆さまの声をもとに整理しています。

町民検討委員会
令和5年12月～令和8年2月
全4回開催 委員数10名

町民ワークショップ
令和5年7月～8月 8分野
全10回開催 49名参加

出前講座 複合庁舎建設について
令和8年3月～4月 全3回
延べ約50名の参加

住民説明会
第1回 基本設計の概要
令和8年2月28日 36名参加
第2回 財源及び実施設計等のスケジュール
令和8年5月9日、5月11日の
2日開催 19名参加



◀イメージ図となります。実施設計段階での検討により変更になる可能性があります。

イメージ図 役場窓口

主なご意見と回答

- **気軽に利用できる明るい雰囲気施設がよい**
→多世代が気軽に交流できる拠点施設を目指します。防災拠点・交流拠点の中に役場機能が入るといイメージを考えています。
 - **建設費や将来の財政負担が心配**
→財政については将来負担を踏まえたシミュレーションを行っており、財政運営が維持できると判断しました。今後も物価高騰や社会情勢を見極めながら慎重に進めてまいります。
 - **建設によって住民税の負担は増えるか**
→施設使用料については、新しい施設に見合った使用料に見直す可能性がありますが、複合庁舎建設によって住民税が増えることはありません。
 - **ワンストップ窓口を継続してほしい**
→分散化している行政機能を集約することで、これまでのワンストップ機能をより充実させたいと考えています。
 - **高齢者や障がいのある方に寄り添った施設にしてほしい**
→階段の無い平屋建てを計画しており、併せてユニバーサルデザイン※1・バリアフリー※2化を図ります。
 - **太陽光発電など環境への配慮も進めてほしい**
→必要最小限の導入を基本としつつ、どのような設置方法にするのかを実施設計段階で検討します。
- ※1ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍・年齢・障がいの有無などに関わらず、最初から「誰にとっても使いやすい」ように製品や建物、環境などをデザインする考えです。
※2バリアフリーとは、高齢者や障がいのある方など、誰もが日常生活を送る上で障壁（バリア）となるものを取り除き、安心して快適に過ごせるようにすることです。



比布町長 村中 一徳

複合庁舎は、単なる「役場の建替え」ではありません。防災拠点として町民の命を守り、行政サービスの向上を図るとともに、子どもから高齢者まで多世代がつながる新たな交流の場となる施設です。今後も町民の皆さまへの情報提供を行いながら、いただいたご意見を大切に、将来の比布町に必要な施設づくりを進めてまいります。

なぜ複合庁舎の建設が必要なのか？

現在の役場庁舎は昭和34年に建設され、築66年が経過しています。平成22年に実施した耐震診断では、現在の耐震基準を大きく下回る結果となり、大規模地震時には重大な被害が生じる可能性が高いことが分かっています。

また、福祉会館、老人センター、消防署なども老朽化が進み、行政機能が町内に分散していることから、こうした課題を解決し、将来にわたって安心して利用できる施設として、新たな複合庁舎の整備を進めています。

1 老朽化
築66年
老朽化が進行

2 耐震性に課題
耐震基準を満たさない

3 施設の分散
施設ごとの維持管理費増加

4 バリアフリー
バリアフリーへの対応不足

これまでの経過

1 平成27年10月 基本構想策定
役場職員による検討チームを設置し、道内視察や協議を重ね、庁舎整備の基本的な方向性を整理しました。

2 令和6年3月 基本構想の見直し
防災拠点機能の強化や町民の利便性向上、多様化する行政需要への対応を踏まえ、複合庁舎として構想を改訂しました。

3 令和7年10月 基本計画策定
「みんながつながる、笑顔を育む」をコンセプトに、必要な機能や施設規模、建設場所などを整理しました。

4 令和8年2月 基本設計
建物の配置や平面計画、各機能の具体的な検討を行い、新しい複合庁舎の姿をまとめました。

これからの予定

1 令和8年8月～令和9年6月末（予定） 実施設計
実際に工事を行うための詳細な設計図や仕様書を作成します。

2 実施設計終了後
建設費の精査やコスト削減、資材確保などについても検討を進めながら、社会情勢や物価動向を踏まえて工事時期を判断します。

新しい複合庁舎の主な特徴

1 ワンストップで利用しやすい施設
役場、保健センター、教育委員会などの行政機能を集約し、窓口をまとめることで、複数の手続きを一か所で行えるなど、町民の皆さまの利便性向上を図ります。

2 多世代がつながる交流の場
交流スペース、こどものひろば、活動室、町民ホールなどを配置し、子どもから高齢者まで気軽に利用できる施設を目指します。図書館とも連携し、地域のにぎわいづくりにつなげます。

3 防災拠点
災害時にも行政機能を維持できるよう、高い耐震性能・非常用電源・防災備蓄・消防機能との連携などを備え、地域防災の中心となる施設とします。

4 環境に配慮した施設
高断熱化・LED照明・自然採光・自然換気・再生可能エネルギーの活用検討・ZEB Ready以上を目標に、将来の維持管理費の抑制につながる施設を目指します。